

理研・笹井氏が自殺

STAP細胞研究指導

神戸の研究センターで

理化学研究所の発生・再生科学総合研究センター（神戸市）の笹井芳樹副センター長（五二）が五日、センター内で自殺を図ったことが分かった。理研によると、同センターに隣接する病院の医師が死亡を確認した。兵庫県警によると、笹井氏はセンターの研究棟の階段の手すりに、ひも状のものをかけて、首をつっていた。

笹井氏は新たな万能細胞とされたSTAP細胞の論文を執筆した小保方晴子研究ユニットリーダー（三〇）の指導役。今年一月に理研が成果を発表した記者会見にも同席しており、論文疑惑が発覚した後も、細胞が存在する可能性を強調していた。



理化学研究所の笹井芳樹副センター長

笹井氏は兵庫県出身。一九八六年に京都大医学部を卒業後、米カリフォルニア大ロサンゼルス校への留学を経て九八年に京都大再生医科学研究所の教授になった。二〇〇三年に理研に拠点を移し、一三年から副センター長。